

カワアイサ（カモ科） 全長65センチ

3月21日、桜祭りで有名な角館桧内川の周辺にはまだ雪が残り、訪れる人もなくひっそりと静まり返っている。

堤防から水面を眺めていたら、清流の中をカワアイサが元気に泳いでいた。オス2羽とメスが2羽。潜水の名手であり、魚を捕らえるテクニックは群を抜いている。頻りに潜水を繰り返すことから、望遠レンズを向けた時は既に水中に潜った後。今度はどこに浮上するのか予測もつかず、カメラマン泣かせである。

20分ほどするとやっと浅瀬に着き、羽繕いを始めた。クチバシの先端は鉤型に曲がっている。これは魚を捕らえた時にしっかりと逃さない様になっているようだ。



流れに向かって進み、潜水を繰り返した。

オスの頭は濃い青色に見えるが、時々光の反射角により鮮やかな緑色に見える時もある。

清流に浮かぶカワアイサ。鮮やかな橙色の足まではっきりと見えた。200メートル上流にはカルガモやコガモ数十羽群れているが、彼等とは一線を画しているようだ。

桧内川右岸から眺める向こう側には角館城がどっしりと構え、手前の川べりには桜並木が数百メートルも続いている。



メスの頭部は暗褐色で後頭には冠羽が見られる。



飛び立ったオス。後ろの水面にいるのはミコアイサのオス。

時が止まったような風景であるが、動きのあるのは水面と野鳥だけ。冬晴れの景色と清流の瀬音を聞きながら充実した探鳥会でした。



頭部が鮮やかな緑色になった。



羽ばたきの一瞬。